

# 避難の呼びかけ体制づくりに向けて

## 1. 避難の呼びかけ体制とは

「避難の呼びかけ体制」は、住民に早めの避難を促すため、呼びかけを開始するタイミングや呼びかけ方法などのルールを決めて、自主防災組織が大雨災害に対して効率的で効果的な呼びかけを行う仕組みです。

自身の組織にあった呼びかけ体制をつくるには、起こりうる災害や組織体系、地域の状況などを考慮して、ルールを決めていく必要があります。

## 2. 体制づくりのプロセス

呼びかけ体制づくりは、次に示す5つのステップを基本として進めていきます。



自主防災組織のこれまでの活動において、すでに実践している項目がある場合は、次のステップに進んでください。また、Step 2と Step 3を同日に行うなど、各ステップを組み合わせることも可能です。



### ◆各ステップにおける取組◆

#### Step 1 防災意識の醸成

- 体制づくりのはじめとして、まずは、気象情報や避難情報など、地域住民の防災に対する理解を深めていくことが重要です。
- 近年の災害発生状況などを参考に、災害が身近に起こりうること、逃げ遅れた例や、呼びかけにより助かった例などを周知し、防災意識の醸成を図ります。

具体的な取組：防災講演会／防災出前講座

#### Step 2 地域性の把握

- 体制の検討には、地域にどのような災害リスクがあり、どこが危険でどこが安全かなど、地域を知ることが重要です。
- 災害リスクの高い箇所を地図上に書き込んだり、実際に地域を歩いてみて地形状況や危険箇所を確認して、地域性を把握していきます。

具体的な取組：災害図上訓練／まちあるき

### Step 3

## 呼びかけ体制づくり

- Step1 と Step 2 を基に、避難の呼びかけ体制に必要なルールをつくります。
- 「避難を呼びかけるタイミング」、「呼びかけの方法」、「呼びかける順番」などを話し合い、呼びかけ体制をつくっていきます。

具体的な取組：ワークショップ／地域での話し合い（役員会など）

### 呼びかけ体制づくりの基本項目

No.	項目	考え方（抜粋）
1	世帯数・人口	自分たちが活動している地域の基礎情報を確認します。
2	避難先	
3	災害想定区域	
4	避難情報の入手方法	正確かつタイムリーな情報入手方法を検討します。
5	呼びかけの順番	短時間で効率的な連絡順序を検討します。
6	呼びかけ担当者不在時の対応	呼びかけ担当者不在時の対応方法を検討します。
7	呼びかけのタイミング	いつ呼びかけを開始するのかタイミングを検討します。
8	呼びかけ範囲・優先度	呼びかける範囲や優先度を検討します。
9	呼びかけの方法	地域の実情に応じた伝達方法を検討します。
10	呼びかけの内容（メッセージ）	避難行動につながるメッセージを考えてみましょう。
11	呼びかけ・避難の確認方法	完了時の確認方法を検討します。
12	避難経路	避難経路を確認します。
13	避難所の開設	いつ避難所が開設されるかを確認します。
14	他団体との連携	連携できる他の団体を検討しましょう。
15	その他	その他地域で検討が必要な事項を確認します。

※詳細は 15 ページを参照してください。

### Step 4

## 呼びかけ体制の実践

- Step 3 でつくった呼びかけ体制が、実際に機能するか、実践確認を行います。

具体的な取組：避難訓練／情報伝達訓練

### Step 5

## 呼びかけ体制の検証

- Step 4 で実践した結果を基に課題を抽出し、より円滑かつ確実な避難行動につなげることができるよう、体制の改善を図ります。
- Step 4 と Step 5 を繰り返すことで、呼びかけ体制をより強化していくことができます。

具体的な取組：ワークショップ／地域での話し合い（役員会など）

次のページから、各ステップ（取組）の具体的な実施方法を掲載します。